

令和5年度 学校評価アンケートの結果について(HP)

吉野川市立飯尾敷地小学校

実施日：令和5年12月14日～令和6年1月3日
 実施方法：WEB アンケート
 回収率：児童（3年～6年）96% 保護者 62%

※数値(%)は、肯定群2項目の合計です。

【児童アンケート結果で評価が高かった項目】

No	項 目	R5
1	学校で楽しく生活することはできた。	98.5↑
3	友だちやまわりの人を大切にして、なかよくできた。	97.1↓
4	ねばり強く最後までがんばれるようになってきた。	95.6↑
5	友だちや先生、お客さまにあいさつができた。	97.1↑
7	先生が教えてくれる勉強(授業)はよくわかる。	98.5↑
14	係や当番、掃除に一生懸命取り組むことができた。	95.6↑
16	学校のきまりや約束を守っている。	97.1↑
19	タブレットを使った学習は楽しい。	95.6↑

【児童アンケート結果で評価が低かった項目】

No	項 目	R5
8	本をたくさん読もうとした。	52.9↑
20	休み時間は外で元気に遊んだ。	69.1↓

- ①なかまづくり「なかよし班活動」や学校全体で取り組む「ポジティブ行動支援」を推進し、「おはようケヤッキー活動」（自他尊重のあいさつができる子を育成する）に取り組みました。「自分にはよいところがあると思いますか。」の項目が前年度80.2%から89.7%にまで向上したことからも、自己肯定感や自己有用感が高まっていることがわかります。自分の学校を大切に思う気持ち（愛校心）も高まり、自主的に生活づくりへの参画を提案できる態度や行動力が育ってきています。
- ②「ねばり強く最後までがんばれるようになってきましたか。」の項目では、前年度86.3%から95.6%になりました。「やればできる」という自信が高まった結果ではないかと考えます。これからも学習への意欲を高め、学力向上の課題解決に向かいたいと考えます。
- ③古い本を整理したりし、図書室の環境を改善しました。関係機関の事業を活用して、新しい本も入れました。読む児童とそうでない児童の2極化が顕著であり、創意工夫が必要と考えています。
- ④休み時間の過ごし方は、「室内で読書や友達と話をする」「外で元気に遊ぶ」など、リフレッシュタイムとなっています。体力づくりなど、体育的な視点からは外遊びを推奨しますし、読書や友達との会話もとても重要です。大切なのは、それぞれの居場所があるかどうかです。高学年児童が外遊びを考えて、みんなで一緒に遊ぶなどの工夫もしました。室内ゲームで遊ぶことが多い現代において、外遊びの仕方を教えたり、教わったりすることも必要と思います。

【保護者アンケート結果で評価が高かった項目】

No	項 目	R5
1	こどもは楽しく学校生活を送ることができている。	98.5↓
3	こどもは思いやりを持って友達となかよくできている。	100.0↑
12	保護者からの連絡や相談に迅速に対応している。	97.0↓
16	感染症対策や衛生指導を徹底し、保護者の連絡や相談に対応している。	98.5↑

【保護者アンケート結果で評価が低かった項目】

No	項 目	R5
14	テレビやインターネット、スマホの使い方についてルールを話し合っている。	80.9↑
15	こどもと将来の夢や進路についてよく話をする。	77.6↑

- ⑤目標や夢、将来の進路について、学校での学びが家庭へつながるような取組の工夫が必要と考えています。家族の応援は喜びと力になります。保護者の出番や役割を意図して創り出していきます。
- ⑥「学力向上」「体力向上」「生活習慣改善」の取組は、教育委員会の指導を受けながら毎年計画的に推進しています。一部内容は、ホームページにも掲載しています。各種便り等でも、取組内容等を発信できるように工夫し、様々な機会を通じてご理解いただけるように努めます。
- ⑦「早寝、早起き、朝ごはん」の生活習慣に関する評価は、児童・保護者とも昨年度より高くなりました。6月と11月には、家庭で「生活習慣リズムチェック表」を用いた取組を実施しました。また、冬休みには、メディア機器（テレビ、パソコン、スマホ、インターネットゲームなど）を使わない時間を持つ「アウトメディアチャレンジ」にもご協力をいただきました。「食べること・寝ること・起きること」を基本とした家庭での生活習慣は、毎日学校で楽しく、粘り強く学習できる土台になります。
- ⑧初めてWEBアンケートで実施しました。今回の回答率を踏まえ、保護者がアンケートに回答しやすいよう、ご意見を伺いながらご協力をお願いしていきます。

【学校関係者評価から】

【児童】

- 「自尊感情の高まり」と「粘り強さ」は関連している。目標やリスクに向けて、さらに一步踏み出そうとするために、自分に何が必要か、発達段階に応じて発見させて欲しい。
- 教職員は、多忙な毎日であると思うが、日ごろから児童との1対1の何気ない会話時間を意図的にもうけていく覚悟が試されている。
- テレビやインターネット等から簡単に結論が得られることから本離れが加速化しているかもしれない。読書による読解力や知識が身につく学習に加え、思考力や集中力など大きくなって必要な力が身に付けられる効果があると思う。更なる工夫を学校と家庭でして欲しい。
- 「いじめや差別のない学校づくり」「個性を認め、一人一人を大切にした教育」の項目で、否定的な回答がある。学校の教育活動全体を通じた人権教育の推進、特に仲間づくりを充実しているが、問題を指導し解消されているというケースにも、継続的で具体的な個別の対策と対応が必要と思われる。

【保護者】

- 「なかまづくり」「異学年集団活動」の効果を、教職員だけでなく家庭でも実感していると感じる。これから、児童数が減少していく中で、この方向性は必要である。
- 「将来の夢」では、会を見つけ出しにくい時代だからこそ、身近な大人である親や先生が夢を語り、働くことへの意義や人のために奉仕する尊さを伝えることが自分の将来を切り拓いていく力になると信じている。

【その他】

- 今こそ「総合的な学習の時間」を見直したい。「自分でやってみる」「失敗から学ばせる」「興味のあることを追究させる」ことが生きる力を育むと思う。
 - 教職員の心身の健康こそが、子どもの心身のゆとり、笑顔につながると思う。大人の仲間づくりを大切に、地域の力を大きく活用しながら学習環境を整えて欲しい。
 - ホームページを機会を捉えて頻繁に更新していただいていることに感謝する。
 - 学校と家庭が教育について真摯に話し合える場づくりをしてみてください。
- 取り組んでいる教育活動が、課題解決に向けて機能しているか、しっかりと点検することが重要と感じました。多様化する教育ニーズや教育課題を前に、教職員が自分の思いや願いでいっぱいになって、子どもの思いや願いが受け入れられなくなることがないようにしたい。改めて、時間と心のゆとりがある学校づくりが必要と感じました。